

土木学会田中賞

土木学会田中賞は、1966年（昭和41年）、社団法人土木学会が、橋梁・鋼構造工学での優れた業績に対して、土木学会賞のひとつとして設けられました。田中賞の由来は、関東大震災後の首都の復興に際し、帝都復興院初代橋梁課長として、隅田川にかかる『永代橋』や『清洲橋』といった数々の名橋を生み出した、『田中豊博士』に因む。土木学会田中賞の内容は、『研究業績部門』、『論文部門』、『作品部門』の三部門から構成されています。

田中 豊 博士 YUTAKA TANAKA



日本近代橋梁史上最も著名な技術者で、関東大震災によって被害を受けた橋梁の総数は、東京で675橋、横浜で108橋であったが、復興事業の設計責任者として隅田川にかかる『永代橋』や『清洲橋』といった橋梁群を手がけ、新技術を次々に導入して橋梁近代化の礎を成した。また同じく復興局時代には、福田武雄を指導して新潟の萬代橋の設計を行い、鉄道技師としても総武線隅田川橋梁や東武伊勢崎線隅田川橋梁の設計に関わるなど橋梁技術者としての傑出した業績を残しました。さらに東京大学の教授として多くの橋梁エンジニアの育成に貢献されました。

南三陸町

中橋

MINAMISANRIKU
NAKA-HASHI

 矢田工業株式会社

〒963-0921 福島県郡山市西田町鬼生田字阿廣木1番
TEL.024-972-2811(代) / FAX.024-972-2884

<http://www.yada-k.co.jp>

夢を力に、明日へ架ける。

 矢田工業株式会社

自然豊かな南三陸町の 復興のシンボルとして架けられた『中橋』。

宮城県南三陸町は、東日本大震災の津波で被災した志津川地区の一部の復興まちづくりで、東京オリンピックのメインスタジアムとなる新国立競技場を設計した隈研吾建築都市設計事務所にランドデザインを依頼しました。

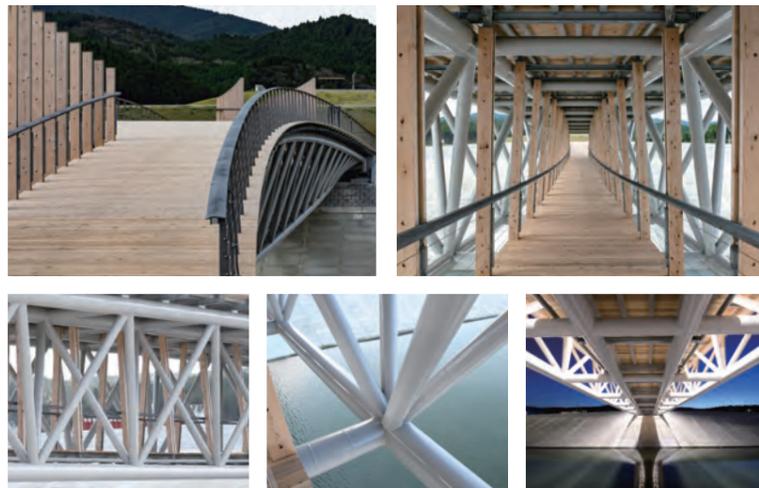
中橋は、津波により甚大な被害を受けた対象区域の観光・商業エリアと、骨組みだけを残す防災対策庁舎を含む南三陸町震災復興祈念公園の間を流れる八幡川に、流出した旧橋に換わって架設された橋梁で、復興の象徴と位置付けられています。

上部工の主部材には一般的な鋼管を用いていますが、床版は、復興の象徴の橋にふさわしい材料として、古くから地元南三陸町の特産品とされてきた杉材を用いました。さらに神社の千本鳥居を思わせるデザインを施して、被災者の鎮魂の場となる震災復興祈念公園への参道に見立てております。



■中橋構造概要

施工位置	宮城県南三陸町志津川字五日町塩入地内
発注者	宮城県南三陸町
設計者	パシフィックコンサルタンツ 隈研吾建築都市設計事務所設計共同体
形式	鋼単純パイプトラス形式(ダブルデッキ) 木床版(南三陸産杉材使用)
主要鋼材	SM490Y, STK490, STK400
鋼重	280t
架設工法	トラッククレーンベント架設
橋長	80.600m
桁長	80.300m
幅員	8~13m



利用する人々にとって柔らかな印象や暖かみを感じやすい円形部材であるパイプを集合させた橋体



中橋は、斬新なデザインに目を奪われますが、それを実現させるための技術と工夫を随所に織り込んでいます。一足先にオープンした『南三陸さんさん商店街』と、多くの犠牲者を出した『防災対策庁舎』を中心とした『南三陸町震災復興祈念公園』とを一つに繋ぎ、鎮魂と共に未来への希望を提供する場になることを期待されております。

